2026 年 7 月 22 日

アプライド・マテリアルズ (AMAT)

製造装置はメモリの３Ｄ 集積と高度パッケージングへ注力。3Q26 の好決算に期待か。キャッシュフロー悪化が財務・株主還元上の懸念点。

ナスダック | 半導体・半導体製造装置 | 業績フォロー

BLOOMBERG AMAT:US| REUTERS AMAT.OQ

フィリップ証券株式会社・リサーチ部

三角友幸

TEL：+81 3 3666 0707（直通）

E-mail：tomoyuki.misumi@phillip.co.jp

直近業績：2026 年 5 月 14 日（米国時間）発表の 2Q26 業績は、売上高が前年同期比 7.7%増の 79.1 億 USD、営業利益が同 16.3%増の 25.2 億 USD、当期純利益は 28.1 億 USD となり、四半期業績としては過去最高の売上高および営業利益となった。8 月 13 日に 3Q26 の業績発表を予定しており、企業予想売上高は 89.5 億 USD （±5 百万 USD）となっている。市場コンセンサスも 90 億 USD が予想されており、このラインを越えるかどうかが株価上昇の鍵となるだろう。セミコンダクター・システムセグメントのアプリケーション別売上では、HBM などの高性能メモリの需要増を受けて DRAM（揮発性メモリ）用途の売上高成長率が高い。一方で、SK Hynix や Samsung の拠点がある韓国地域向け売上高成長率は低いため、今後まだ伸び代があると考えられるだろう。なお、営業利益＜純利益となるのは金利収入などの営業外収益によるものであり、2Q25 から税引き前純利益が営業利益を上回る事が常態化している。

注力分野は後工程パッケージング技術であり、先端ロジック半導体向けに原子レベルでの造膜を可能とする“Trillium ALD”、積層構造成形における選択的な窒化膜積層を可能とする“Precision PECVD”を発表した。これらの装置は、3 次元トランジスタ構造（FinFET）やゲート・オールラウンド型(GAA)といった最先端の３Ｄパッケージング技術に対応する。また ASM パシフィックテクノロジー（ASMPT）傘下の成膜技術を専門に扱う NEXX 社を買収し、後工程技術を強化した。

競合となるラムリサーチ(LRCX)や KLA テンコール（KLA）と比べ、売上成長率や利益率も低い（表③）。予想 PER もこれら 2 社より低い水準にあり、成長加速や利益率改善で 2 社に近似することによる株価上昇余地があると考えられる。財務上の懸念点はキャッシュフローの悪化である。営業キャッシュフローの前年割れ（表⑥）要因は売掛金の増加である。キャッシュ転換サイクル全体が延びた場合、株主還元にも影響する可能性があるだろう。

通期業績（10月期）		FY2023	FY2024	FY2025	CAGR	FY2026(F)
売上高	(10億USD)	26.52	27.18	28.37	*3.4%*	33,706
当期利益	(10億USD)	6.86	7.18	7.00	*1.0%*	10,460
希薄化後EPS	(USD)	8.11	8.61	8.66	*3.3%*	13.09
一株あたり配当	(USD)	1.16	1.52	1.78	*23.9%*	1.89

四半期実績推移		2Q25	1Q26	2Q26	ΔY/Y	3Q26(F)
売上高	(10億USD)	7.10	7.01	7.91	*7.7%*	9.01
売上総利益	(10億USD)	3.49	3.44	3.95	*13.3%*	--
%粗利/売上高		49.1	49.0	49.9	*+0.8pts*	--
営業利益	(10億USD)	2.17	1.83	2.52	*16.3%*	--
%営利/売上高		30.5	26.1	31.9	*+1.3pts*	--
当期利益	(10億USD)	2.14	2.03	2.81	*31.3%*	--
希薄化後EPS	(USD)	2.63	2.54	3.51	*33.5%*	3.42
一株あたり配当	(USD)	0.40	0.46	0.46	*15.0%*	0.50

引用：企業公表値、ブルームバーグ(Fはブルームバーグ予想値)、CAGRはF3ヵ年平均複利成長率

予想配当（USD）	1.89
株価（USD）	525.70
実績 PER（倍）	53.26
予想 PER（倍）	42.32
時価総額（10億 USD）	417.38
一日あたり売買代金3ヶ月平均（百万USD）	4,928.46

*配当予想と予想PERはブルームバーグ、各数値は7/20終値による

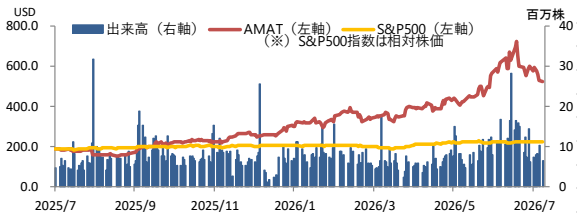
*実績PERは過去12ヶ月の累積EPSに基づく

会社概要

米カリフォルニアを本拠地とする世界最大級の半導体製造装置メーカー。1967年創業、1972年にNASDAQ上場。本社は米国カリフォルニア州サンタクララ、現CEO兼社長はゲイリー・E・ディッカーソン氏。

主要セグメントは半導体製造工場（ファウンドリ）を顧客として製造装置やシステム関連ソフトウェアを販売する①『半導体システム』、工場内の配置や製造プロセスなどのコンサルティングを行う②『アプライド・グローバル・サービシーズ(AGS)』である。

株価推移



（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

①株価リターンデータ＊	AMAT	S&P500	β推計値	α(アルファ)
市場ベータ（β）	1.65	1.00	--	--
日次平均リターン（r）	0.47%	0.07%	0.78%	-0.31%
日次標準偏差（σ：シグマ）	3.53%	0.80%	5.83%	2.30%
r ＋ 1σ 超過利得・観測日数	35.0	28.0	--	--
r － 1σ 超過損失・観測日数	32.0	32.0	--	--

②競合・類似企業比較(市場)	LRCX	KLA	ASML	AMAT
株価（26/7/20: USD）	306.76	207.60	1,739.02	525.70
時価総額（26/7/20: 10億USD）	383.6	271.2	675.0	417.4
予想PER	54.0	55.9	43.4	42.3
年率平均リターン（r）	111.0%	79.9%	85.8%	101.1%
年率標準偏差（σ：シグマ）	59.1%	57.9%	44.7%	56.0%
AMATのリターンとの相関(≦1.0)	0.89	0.87	0.79	1.00

＊表①②の平均リターン・標準偏差はブルームバーグデータ（25/7/18~26/7/20）を用いて算出。

＊表①②の各項の定義および含意については次頁参照。

＊TSMCの各データ、リターン、標準偏差は米国市場ADRのドル建て価格推移に基づいて計算。

業績詳細（単位：10億USD）

③競合・類似企業比較(業績)	LRCX	KLA	ASML	AMAT
直近決算日	26/4/22	26/4/29	26/7/15	26/5/14
直近決算区分	3Q26	3Q26	2Q26	2Q26
TTM売上高	21.68	13.10	35.33	29.02
TTM売上高CAGR	*15.0%*	*10.9%*	*10.6%*	*3.1%*
%3ヵ年平均TTM営業利益率	31.0	37.7	33.6	29.0

*TTM(trailing twelve months)は直近の四半期決算を基準とした過去12ヶ月の業績の集計値

*売上高CAGRと平均利益率は、各社直近決算日とその前年同期、前々年同期を起算日として遡及計算した各期TTM業績に基づく。(AMATの場合、2Q26, 2Q25, 2Q24を基準としたTTM業績を参照)

④地域別売上推移	2Q25	1Q26	2Q26	ΔY/Y
中国	1.77	2.10	2.09	*17.6%*
韓国	1.56	1.46	1.57	*0.6%*
台湾	2.00	1.72	2.16	*7.9%*
その他地域計	1.77	1.74	2.10	*18.6%*

⑤セミコンダクター・システム業績	2Q25	1Q26	2Q26	ΔY/Y
セグメント売上	5.40	5.14	5.97	*10.4%*
↪ファウンドリ・ロジック	3.56	3.19	4.00	*12.1%*
↪DRAM	1.46	1.75	1.73	*18.6%*
↪フラッシュメモリ	0.38	0.21	0.24	*-36.9%*
%セグメント利益率	32.8	27.8	35.1	*+2.3pts*

⑥キャッシュフロー＆株主還元	2Q25	1Q26	2Q26	ΔY/Y
当期純利益	1.19	2.03	2.81	*136.8%*
営業キャッシュフロー(CFO)	1.57	1.69	0.85	*-46.2%*
フリーキャッシュフロー(FCF)	0.54	1.04	0.21	*-61.4%*
自社株買い＆配当総額	2.00	0.70	0.77	*-61.7%*
%株主還元総額/FCF	366.7	67.5	364.3	*-2.44pts*

引用元：図表①~④企業およびブルームバーグデータにもとづく

＊青字・水色字はアナリストによる計算・集計による。

＊小数点以下の集計数値が合計に合わないものは、四捨五入によるものである。

フィリップ証券
A member of PhillipCapital

<レポート右図表における『株価リターンデータ』の項目における用語説明>

レポート右図における『株価リターンデータ』の各項目を以下のように定義し、情報端末より引用、もしくは情報端末の市場データを用いて算出しています。

市場ベータ（β）	ブルームバーグ端末より参照した市場ベータ値（未修正＊）。当該株式と指数との連動性を示しており、当該株式を保有する投資家が取っている市場リスクの多寡を示す。 ＊未修正とは、ブルームバーグ調整ベータと異なり、時価総額による調整を行っていないことを指す。
日次平均リターン（r）	観測期間（過去 52 週）における日次リターン（前日終値に対する当日終値の上昇・下落率）の平均値。
日次標準偏差（σ：シグマ）	観測期間（過去 52 週）における日次リターンの標準偏差であり、投資家が取っている価格リスクを示す。
r ＋ 1σ利得超過・観測日数	過去 52 週（営業日数 250 日前後を想定）における実測の日次リターン（利得）が、平均リターン(r)と標準偏差(σ)× 1 の和を超過した日数。
r － 1σ損失超過・観測日数	過去 52 週（営業日数 250 日前後を想定）における実測の日次リターン（損失）が、平均リターン(r)と標準偏差(σ)× 1 の差を超過した日数。
β推計値	S&P500 をベンチマーク指数とし、ベンチマークの日次リターンに当該株式の市場ベータを乗じて導出した、当該株式の日次リターンの推計値の過去 52 週平均値、および推計日次リターンの過去 52 週の標準偏差値。
α（アルファ）	β推計された日次リターンと実測日次リターンとの差分。投資家が当該個別株に投資することによって得られた市場リスクに対する理論上の超過利得（損失）を示す。

＊当該株式のリターン、S&P500（指数）リターン、β（ベータ）と α（アルファ）には以下の関係があると想定する。

$$R_{株式} = \alpha + \beta \times R_{指数}$$

$R_{株式}$：当該株式の価格リターン

$R_{指数}$：ベンチマークとなる指数の価格リターン

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 4 番 2 号
TEL:03-3666-2101　　URL： http://www.phillip.co.jp/
本レポートの作成者　　：リサーチ部 三角友幸

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 （平 14.1.25）」に基づく表示＞

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。